

令和7年度 「市民とつくる協働のまち事業」採択事業一覧

No.	応募団体名	事業名	応募事業の概要
1	coconowa	医療的ケア児・病児・障がい児の母親のコミュニティ創出事業	鹿児島市、県内に在住の医療的ケア児、病児、障がい児とその家族を対象とした交流会や、交流会参加者の意見を基に講師を招き講演会を企画する。また、パネル展を実施し医療的ケア児の啓発活動を行う。 その他、地域と連携し、子育てサロンを実施する。
2	NPO法人グッジョブサポート	こども食堂と居場所づくり「グッジョブMIRAI食堂」事業	天文館地区に子ども達、孤立しがちな地域のシニアや若者が集い繋がれる場として、子ども食堂と多世代交流の居場所づくりを実施する。また、子ども食堂で過ごす子ども達の様子をみながら相談を受けられる体制とする。
3	一般社団法人みつばちビレッジ	障がいがある人もない人もみんなが笑顔になれるイベント『ふれあいフェスタ2025inかんまちあ』	障害のある人や困難を抱えている人々が気軽に出かけられるイベントが少ないため、障害がある人もない人も、老若男女問わずみんなが楽しく交流できるマルシェを開催する。
4	HSP/HSC鹿児島やさしいハリネズミの会	HSP/HSCチャレンジ ハリーdeマルシェ	5人に一人はいると言われているHSCの子供、HSPの大人たちのコミュニティの場所が少ないため、悩んでいる保護者の癒しの場やHSCの子ども達のチャレンジの場所がなく、自立につながりにくい。2か月に1度、専門のサポーターや、当事者が主催のマルシェを開く事により、チャレンジできる機会と保護者同士のつながりを作りながら、安心した場所でHSCの子ども達が自信をつけて自立につながる支援をする。
5	NPO法人姿勢と体の教室	学校現場における勉強会・研修会への理学療法士派遣事業	①「姿勢教室」の実施 学習時・机上作業時の姿勢を改善し、視力低下・頭痛・肩こり・腰痛等を予防するために当団体で作成した「TONUS振り子体操」指導を中心に、小学生・保護者・教職員を対象にした講座を開催する。 ②「歩き方教室」の実施 立った状態でリズムに合わせて行う全身体操でしゃがみ動作と歩く時の足の使い方を改善することで、大きな足音・転倒・怪我等を予防する「TONUS振り子体操2」を新たに作成し、転びにくい歩き方を身に着けることを目的とした講座を幼稚園生・小学生・保護者・教職員を対象に開催する。 ③「TONUS振り子体操・TONUS振り子体操2」パンフレットを幼稚園や小学校に配布する。
6	吉野地域支えあい座談会	福祉すまいるドライバー養成セミナー事業	吉野圏域を含めた市内全域の移動支援の安全性向上と安心できるまちづくりに貢献するため、介護事業所や福祉ボランティア団体で従事・活動する方、活動に興味がある方、家族の介護等で要支援・要介護者を送迎している市内全域のドライバーを対象に「福祉送迎ドライバー講習会」を開催する。
7	学校法人鹿児島大谷学園	フリースペース大谷 子ども・保護者に向けた生活・学習・子育て支援	①様々な事情により学校に行けない、あるいは家庭以外に安心できる場所のない子どもたちが、少しでも安心して人と関わることができるためのフリースペースを設け、そこで子どもたちに様々な生活体験・満足体験をしてもらう。 ②不登校児が学校への復学・進学について意欲が持てるように、学校の行事に合わせた活動を企画する。 ③家庭の問題も不登校に影響していると考えられることから、保護者・子ども間の困りごとの解決・発展に繋がるような学びの場をつくる。

令和7年度 「市民とつくる協働のまち事業」採択事業一覧

No.	応募団体名	事業名	応募事業の概要
8	せごだん	西郷団地の私設公民館の有効活用を語るトークイベント	少子高齢化によるコミュニティの希薄化や増加する空き家などの課題に対して、空き家をリノベーションした私設公民館「よりどり」の今後の有効活用や空き家利活用の啓蒙のため、外部講師を招いた実践的なトークイベントを実施する。また、イベント動画のダイジェスト版を公開する。
9	NPO法人居場所-共学ステーションかごしま	「日本語教育が必要な児童生徒の現状と対応」シンポジウム事業	多国籍化・多文化化が急速に進む日本社会において、日本語を第一言語としない児童生徒の増加は顕著であり、良質な「日本語教育」が提供されることはきわめて重要であることから、日本語教育の専門家による講演会と関連するさまざまな立場の地域住民によるトークセッションを行うシンポジウムを実施し、日本語教育の今後の向上を図るとともに、地域社会に広報する機会とし、関心を高め、共に考える意識を醸成する。
10	NPO法人スマイルシェアフードキャンプ	ロマン・グローバルアドベンチャーキッズ	近年、地域の子どもたちの英語教育に対する関心は高まっているものの、実際に英語を「使う機会」が不足していることが課題となっていることから、「（仮）ロマン・グローバル！アドベンチャーキッズ」を開催し、子どもたちが英語を使いながら学び、体験できるイベントを通じて、実践的な英語力と異文化理解を促進する。